

## 「地域の人材を巻き込んだ日本語支援及びレベル差のあるクラスでの日本語支援」

大網白里市国際交流協会（学校法人瀧澤学園 千葉モードビジネス専門学校）中澤 美水

### <課題を設定した背景>

大網白里市多文化共生推進プランの基本理念が「互いの国籍や文化を認め合い、誰もが住みたい・住み続けたいまちの実現」となっているが、教室では、日本語教師が不足しているため、特に、0 初級者への支援が足りておらず参加が安定しない。一番日本語を必要としている方に、安心が届いていないのではと感じる。日本語支援の方法は、学校型で学習者全員対教師一人の構図となっている。基本は初級・初中級クラスとしているが、実際には教師一人に対し子ども～大人混在の0 初級～N2 相当と幅広いレベルを対象とした教室活動を行っており教室活動の難しさを感じている。そのため教師以外の支援者を巻き込んでのスムーズな運営方法を検討したい。これらのことから、日本語を提供するだけでなく、地域の人材を巻き込み、日本語支援を通して、在住者と地域住民の対話や交流の場となる教室にしていきたいと感じた。

### <教室の現状>

- ・初級が対象だが、0 初級～N2 まで幅広い学習者が不定期に参加。
- ・毎月第1～第3 土曜日の開催、教師は毎週別。  
※教師は、自身の所属日本語学校から3 名（他地域より派遣）、元小学校教員1 名
- ・チームティーチングなしの1 回完結型。カリキュラムなし。教師別に活動が異なる。
- ・交流型メインに、表現文法、作文の活動あり
- ・対象者層：ALT、主婦、奨学生、技能実習生など。
- ・月1 回は 初中級向けの文化授業
- ・参加者は毎週同じ

### <考え実践したこと>

- ・学習者の声を聴く

教師は混在学級にて、運営の難しさを感じていたが、学習者が実際どうなのか

8 月末から、参加者が減ったため、長期で参加している学習者（中級者）のみ話しを聞くことができた。

長期継続の理由：日本語への向上心が一番。交流が楽しい。

授業に関して：自分のレベルより簡単な活動をしていても、学びがあるので問題ない。

周りの在住者の様子：大網白里市で、「日本語に困っている」という在住者は多くないと思う。日本語を学ぶというより、日本語を使って交流できる場があるということを知った方が、人が集まるのではないか。

上記意見を踏まえ、中級学習者は問題ないとのことだったので、このままレベル差のある交流型の学習を継続した。

### 子どもと大人混在のクラスで子どもの支援をどうするか

親子連れの新人会者がおり、子どもが0 初級だった。教師が月2 回来て、子どもを取り出していたが、毎回難しいため、国際交流協会の方に学習支援方を研修し、教室の半分の時間、取り出しで子どもの学習支援をしてもらった。

この試みはうまく行き、協会の方・子どもの双方楽しいとのことだった。

5 回実施後、親子に、子どもが大人と混在と、子ども用に別で学習するのとどちらがいいか話を聞くと、半々で学ぶのが丁度いいとのことだった。学習者が少ない場合、教師は一人で十分なので、国際交流協会の方に

支援員を兼任してもらおう方向で進めて行くのが丁度いいことが分かった。

#### ・国際交流協会との意見交換

課題設定時には主な課題としていなかったが、中間報告にて、教師と協会側とのコミュニケーションの難しさを共有した。11月の研修で、協会に教師全員とのミーティングを持てるよう提案することをアドバイス頂き、12月の理事会で提案した。時間や手間など諸々の事情で全員とのMTは難しいとの返答をいただいた。そこで、日々の教師側の意見をまとめて提出した。

#### ・広報に関して

混在クラスにおいては学習者が減っているため、0初級に応じた支援者を増やすのではなく、まずは学習者を増やす方法を検討することにした。そのため、11月の研修でアドバイスいただき、協会の協力を得て、多言語によるチラシを作成した。また、国際交流協会では、SNSとHPの運用は難しいとのことで、市のホームページへ定期的に情報を更新し、アップできるよう生涯学習課に相談した。できる範囲での対応が可となった。

#### <考えたこと>

- ・授業は良い状況に思えたが、中級の学習者が初級の内容を学ぶことは問題なかったが、初級の学習者が中級の学習者と学ぶことで発言が奪われがちになっていることが増えた。初級者の希望は交流ではなく勉強であることも判明し、交流型と勉強を積み上げるクラスを分けた方がいいと感じた。

#### <困難なこと（・）と研修で頂いたアドバイス（→）>

- ・支援者、学習者の定着はどちらも難しい。支援者側は世代の偏りがあり、支援者側からの意見として、目・耳・その他体力面での不調の訴えや、HP・SNS運用も精神面において廃止したいと希望があった。周知がチラシと市のHPだけになる。  
→実習生も増えているので、企業などに周知するのもいいのでは。
- ・小人数の学習者のどのニーズを満たすべきか今後も検討が必要。  
→学習者から運営の手伝いを募るのはいかがでしょうか。  
ニーズに合わせてコースを増やすことよりも、「対象学習者のレベル」と「やること」を取捨選択し、継続させることを第一に運営する方がいいのでは。

#### <コーディネーターとして果たした役割>

協会と教師をつなぎ、教師と学習者をつなぐことを命題に取り組んだが果たしきれなかったように思う。しかし、自分では気づけなかったが、日本語学校とのつながりを持てたことなどを成果として見ていただき、少しはできたこともあったように思う。行政とのかかわりなどに問題意識を持つこともできたので、今後の課題としていきたい。

最後に、自身が大切にしたい視点について述べる。

辛いこともあるが、「誰のために何をしているのか。この活動がなぜ必要なのか。」など、個人の思いにならないよう、客観的視点を忘れないように人や場をつないでいきたい。

この度の研修を通して、似たような状況の仲間がいることを知りとても励みになった。また、たくさんのアドバイスをいただき勇気づけられた。かかわった皆様に心からお礼を申し上げます。